事務局 amateur スタッフによる**フォロー・アップ メモ・ランダム**

“出雲神話と考古学” にて

講座 ではオオクニヌシとペアになるのはカミムスヒであるとお話しがありました。『古事記』の手間山では、兄神たちに焼死させられたオオクニヌシは、カミムスヒの助けによって蘇生しています。『出雲国風土記』でも楯縫郡の地名譚に関わる神として、また出雲郡、神門郡、島根郡の地名譚に関わる神の祖神として登場し、神魂＝カモスと呼ばれています。その一方で、記紀においてカミムスヒは、アメノミナカヌシ、タカミムスヒに続いて現れる造化三神の一柱であり、アマテラスやオオクニヌシの大元の祖神に当たるとても古い神なのです。カミムスヒと神魂、両者が同一神とは、なんだか複雑そうです。

弥生時代に渡来人によってもたらされた水耕稲作は、それに伴って増加した人口の移動によって東方に展開していったと思われます。稲作と共に様々な技術や文化も、これらの移入人口に担われた可能性があります。畿内の民は、その多くが九州・山陰・瀬戸内などから移入してきた人たちで占められていたのではないでしょうか。自らの出自が出雲や吉備であることを認識していたし、誇りとしていたかも知れません。そのような常識の中なら、歴史書の冒頭に描かれる神話の舞台が出雲であることは当たり前で、むしろ当然のことだったのでしょう。しかし、何世紀も昔に本貫を離れて都に暮らす人たちと、遠く離れた出雲の地に暮らす人たちとの間には、通ずる部分と通じない部分があったと思われます。

講座にもあったように、『古事記』はその成立年代に疑問が持たれます。一方、『日本書紀』は後の歴史書にも取り上げられ、成立年代に疑わしさはないようです。天武天皇が天武10年(681年)に川島皇子らに編纂を命じていますが、舎人親王らが完成させて、撰上したのは天武天皇から4代降った元正天皇に対してです。養老4年(720年)のことですから39年かけて編纂されています。『出雲国風土記』は、和銅6年(713年)の詔命に従って撰進された解文(報告書)ですが、完成したのは『日本書紀』が撰上された後の733年です。二つの書物の編纂は、その開始から完成まで39年と20年を要し、7年間は並行しています。両者の執筆者や編纂者は、互いの内容をどの程度知っていたのでしょうか。

2012年に登壇された森博達先生は、当時の日中両言語の音韻を復元することによって、渡来中国人が正格漢文で述作している巻14～21、24～27をα群、倭習に満ちている巻1～13、22～23、28～29をβ群に区分しています。神話の時代が書かれた巻1、2は、雄略天皇から始まるα群を編纂した後で、天武没後の述作かも知れません。このα群に天照大神の名は登場してきません。巻21用明天皇の時代にアマテラスと思しき記事がありますが、伊勢神宮の“日神”と表現されていることから、伊勢の地方神と言うよりこの時創作された(でっち上げられた)神名ではないかと、伊勢の友人は考えています。天武以降の政権中枢に、女帝が君臨していたことも反映されているのかも知れません。

平安初期(815年)に編纂された『新撰姓氏録』には京畿内の1182氏の出自が記録され、その内404氏が神々から分かれた“神別”に配列されています。多くの氏族が、自分たちの先祖は“神”と主張し、天皇家だけが“神”の子孫と言うわけではなさそうです。中臣氏は天岩戸で祝詞を奏上したアメノコヤネの子孫だし、大伴氏はタカミムスヒの子孫であり、出雲臣もアメノホヒの子孫です。天皇家が単に神の子孫であると主張しても、対立する氏族はたくさんいたわけです。そこで述作者たちは神話の中で、各氏族の祖神たちそれぞれに役割を設定して序列化することで、神代においても皇祖神であるアマテラスが神々の頂点に立っていたことを明らかにして、現世における天皇を正当化したのだと思います。

ところで、天津神・国津神は現世に常駐せず、人々の求めに応じて深山の大木や磐座に宿り、役目を終えると元の世界に戻ると考えられていました。神々に社を建て始めたのは、仏様が寺院で祀られているのを見たからだと言われています。瓦窯などの産業基盤が必要な寺院建設は、畿内中枢から広まったと考えられ、日本初の本格的な寺院とされる飛鳥寺は596年に建立されました。その僅か一世紀後の出雲では、風土記に399社の神社が記録されています。また、風土記や記紀には出雲大社の高さが特筆され、970年に源為憲が著した『口遊』には、貴族が覚える教養のひとつとして、出雲大社が奈良の大仏殿より高かったことが示されています。ついに、2000年の出雲大社境内遺跡の柱跡の検出によって、宝治2年(1248)の遷宮造営が事実と確認され、同時にこれらの古代から伝わる高層建築の実在が証明されました。

“古代出雲歴史博物館に展示されている建築史学者5名の復元模型 ”

※ 古代史（弥生時代～飛鳥時代）に疑問をお持ちの方、疑問・質問・反論 大募集 （体裁は自由ですが、文書でお願いします）